

いずみのひろば

2018年4月号
日本基督教団堺教会
No.473 教会学校

愛し合いなさい ローマの信徒への手紙13章8〜10

教会学校では十戒を学んできました。十戒は、私たちが神さまを愛し、また私たちがお互いに愛し合い、幸せに生きることができるようになる神さまが与えてくださった十の約束です。今日はその最後の約束、「あなたと隣人の家をむさぼってはならない」です。むさぼるといのは、いくらでも欲しがるということです。隣人というのは、わたしたちの周りの人です。ですからこの約束は、周りの人のものをどこまでも欲しがってほしくないという約束です。旧約聖書の時代の王様アハブは、王様の住む宮殿のそばにあるナボトという人のぶどう畑が欲しくなり、お金を払うので売ってほしいとナボトにたのみましたが、ナボトから断られてしまいました。それで、ナボトを罠にはめて殺してしまいました。そして、ナボトの畑を自分のものにしてしまったのです。隣人の家をむさぼることは、自分を満足させますが、隣人を不幸にさせてしまいます。わたしたちにはこのような悪い心はないでしょうか？人のものを自分のもののようにしてしまったり、みんなで分け合うものを独り占めしてしまったりすることはありませんか？自分はよくても、隣人は悲しい思いをしているということがありませんか？

姦淫するな、殺すな、盗むな、むさぼるな、そのほかどんな掟があつても、「隣人を自分のように愛しなさい」という言葉に要約されます。これ

まで十戒の中の「姦淫するな、殺すな、盗むな、むさぼるな」についてそれぞれ学んできましたが、これらの約束は、結局「隣人を自分のように愛しなさい」という言葉に要約されるのだということです。では、愛するということとはどういうことでしょうか？人を好きになるということと似ていますが、少し違います。愛するということは、その人を大切にすることです。イエスさまは十字架にかけられましたが、聖書にはイエスさまが十字架のうえで言われた7つの言葉が記されています。その一つは「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。」という言葉です。ポンテオピラトがイエスさまのことを「この男には死刑に当たる犯罪は何も見つからなかった。だから、鞭で懲らしめて釈放しよう。」と言ったにもかかわらず、人々は「十字架につけろ」と叫び、十字架のうえのイエスさまをからかったり、ののしったりしました。悪い心を持つ私たちもその中のひとりです。しかし、イエスさまは十字架のうえからその人々を「ごらんになりつつ、なおも「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。」と私たちのために祈ってくださいました。」

イエスさまは十字架のうえでそれほどまでにわたしたちを愛してくださいました。わたしたちは十字架のうえのイエスさまをいつも思い出して、神さまのごどもとして愛し合つて歩んでいきましょう。

(おはなし ゆたに かずしげ先生)